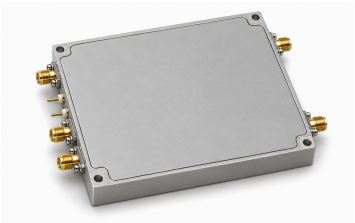
IF送信入力2系統、6–8.3 GHzアップ／ダウンコンバータ



LCMIXUD-6000-8300は2系統のIF送信入力を内部で合成し、RF送信・受信端子を個別に備えます。TTLは1つのモードを選択し、3.3 Vでアップ変換、0 Vでダウン変換を有効にします。入力は内部でLowにプルダウンされています。同時全二重動作を示す仕様ではありません。

ダウン変換経路の利得は30 dB代表値、雑音指数は2 dB最大値です。電源は公称+5 V、最大6 V、電流は600 mA代表値、本体は100 × 80 × 13 mmです。アップ変換入力−15 dBmは整合の推奨値です。Psat ≤5 dBmは原資料の上限として扱います。

電気仕様

項目	値	単位
RF周波数範囲	6–8.3	GHz
IF周波数範囲	3.2–5.5	GHz
ダウン変換利得	30 (代表値)	dB
ダウン変換雑音指数 [1]	2	dB
飽和出力電力（Psat） [2]	≤5	dBm
出力スプリアス [3]	−40 (代表値)	dBc
漏洩レベル／資料の抑圧値	40 (代表値)	dBc
電源電圧 [4]	+5	VDC
電源電流	600 (代表値)	mA
内部LO周波数	11.5	GHz
内部基準周波数	50	MHz

[1] 最大: 2 dB.

[2] 資料の上限であり、最小出力能力ではありません。

[3] RF 出力電力 0 dBm 時。

[4] 記載電源は +5 V、最大 6 V。 代表電圧とは推定しません。 最大: 6 VDC.

環境限界

項目	値	単位
動作温度	−40–+70	°C
保存温度	−40–+85	°C

インターフェースと端子

インターフェース	仕様
受信RF入力	RF_R: SMA
受信IF出力	IF_R: SMA
送信IF入力	IF_T1, IF_T2: SMA (資料のブロック図では二つの IF 入力を合成します。)
送信RF出力	RF_T: SMA
電源インターフェース	+5 V / GND (電源は貫通コンデンサ、接地は金属接地片を使用。)

制御とフィルタ選択

項目	値
モード制御インターフェース [1]	TTL
TTL Highモード [2]	3.3 V
TTL Lowモード [3]	0 V
TTL既定状態	内部プルダウン。

[1] 制御端子は貫通コンデンサを使用。

[2] アップ変換オン、ダウン変換オフ。

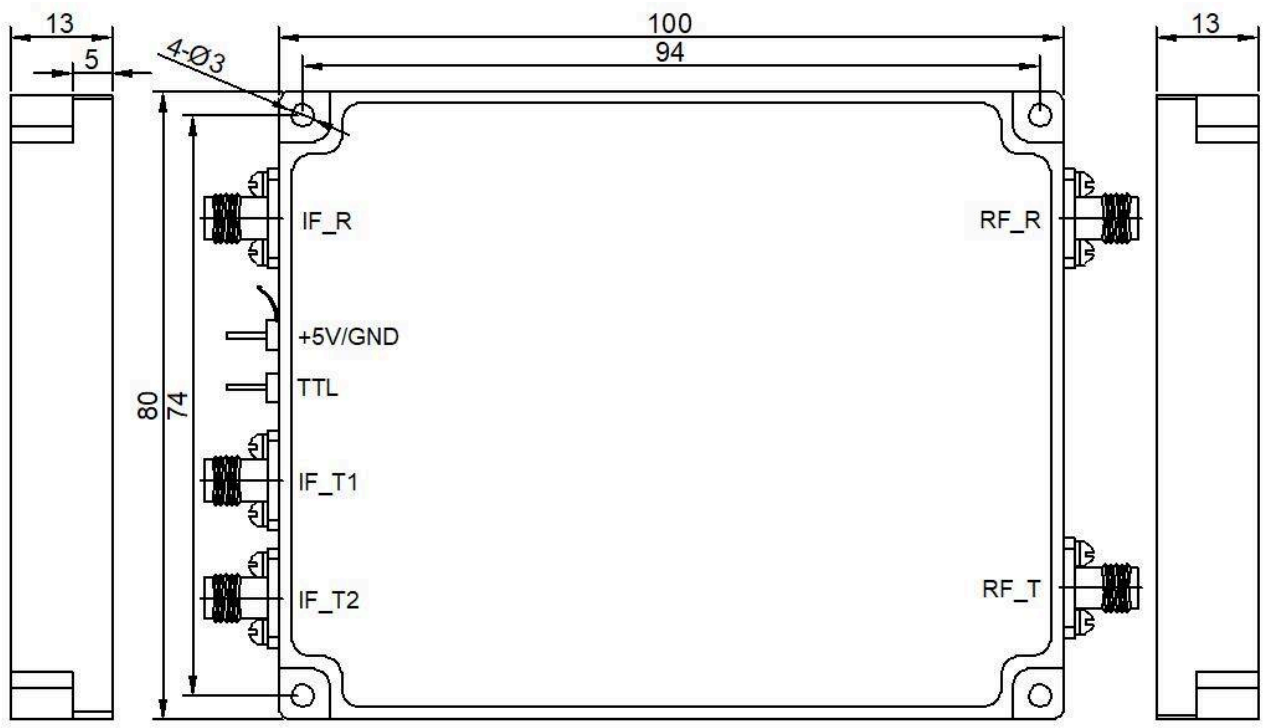
[3] ダウン変換オン、アップ変換オフ。

組み込み時の指針

項目	値	単位
推奨アップ変換入力	−15 (整合の指針であり、絶対定格や P1dB ではありません。)	dBm

機械仕様

項目	値	単位
本体寸法	100 × 80 × 13	mm
取り付け穴中心間距離	94 × 74	mm
取り付け穴	4 × Φ3	mm



文書に関する注意

仕様は製品の更新に伴い改訂される場合があります。設計を確定する前に、現行の文書改訂版と製品固有の要件を LCRF に確認してください。供給構成は承認済みの見積書および注文書類で定義されます。